

質問回答

NO.	質問	回答
1	前提条件 仕様書にいう「土壌等」に含める試料の具体的な範囲をご教示ください。	仕様書 3. (1) (ア)に記載している「土壌等」とは、仕様書に記載の通り「土壌ほか固形試料」を想定しています。例として挙げている下記ものを参考にしてください。 ・農研機構「土壌に含まれるPFASの一斉分析暫定マニュアル」(2024) ・PFOS及びPFOA含有廃棄物の処理に関する技術的留意事項(2022) ・肥料等試験法(2023) 8.7有機ふっ素化合物 ・EPA Method 1633(2024) ・DIN規格、EN規格 等
2	国内機関、諸外国等の土壌等の分析方法についての文献調査・収集 ・資料の版管理と網羅性の基準 EPA Method 1633等の分析法は改訂が想定されます。業務期間中に改訂が生じた場合、追補版の作成・添付は必須でしょうか。	業務期間中に改訂が生じた場合、追補版の作成・添付は必須です。
3	国内機関、諸外国等の土壌等の分析方法についての文献調査・収集 ・資料の版管理と網羅性の基準 「網羅的」収集の遡及期間(対象年数)や対象国の範囲に関する基準があればご教示ください。	仕様書に記載の通り、例として挙げている下記ものを参考にしてください。 ・農研機構「土壌に含まれるPFASの一斉分析暫定マニュアル」(2024) ・PFOS及びPFOA含有廃棄物の処理に関する技術的留意事項(2022) ・肥料等試験法(2023) 8.7有機ふっ素化合物 ・EPA Method 1633(2024) ・DIN規格、EN規格 等
4	暫定測定方法の適用可能性の追加検証 ・提供される土壌に関する前提 追加検証に用いる土壌の種類と点数は何種類程度を想定されていますか。これらは提供される試料で網羅される前提でよろしいでしょうか。	仕様書に記載の通り、別途「令和6年度土壌・排水・地下水等におけるPFAS対策技術等の実証支援・情報収集委託業務」で実施している実証事業の1地域程度で採取した土壌(すでにボーリング試料があるのでコア箱から提供)6試料程度(種類・点数として合計6程度)を想定しています。提供する試料の範囲での追加検証を想定しています。
5	暫定測定方法の適用可能性の追加検証 ・提供される土壌に関する前提 土壌試料は「運営事務局または提案採択者から提供」とありますが、土壌分類・ボーリング深度等の付随情報は提供時に併せてご提供いただけますか。なお、「土壌情報の整理(pH)」は、土壌懸濁法による規格測定値を指すのか、溶出試験条件の液側pHを指すのか、対象をご教示ください。	土壌分類・ボーリング深度等の付随情報は提供時に併せて提供します。「土壌情報の整理(pH)」は、土壌懸濁法による規格測定値を想定しています。
6	暫定測定方法の適用可能性の追加検証 ・提供される土壌に関する前提 提供される土壌試料は均質化済みでしょうか。乾湿状態、容器形態、深度ごとの提供量等の仕様があればご教示ください。	仕様書に記載の通り、「土壌(すでにボーリング試料があるのでコア箱から提供)」です。
7	精度確認試験について 「3機関」は環境省ご指定でしょうか。請負者選定可の場合、自社ラボを1機関として含めることに問題はありませんか。	「3機関」は請負者の提案によります。自社ラボを1機関として含めることに問題はありません。
8	精度確認試験について 協力機関の扱いは、再委託先としての位置づけを想定すべきか、ご方針をご教示ください。	原則として、再委託先としての位置づけを想定しています。

9	「令和4年度有機フッ素化合物土壌分析法検討調査業務」データについて 比較用のデータは、Excel等のファイル形式でのご提供を想定してよろしいでしょうか。閲覧のみの場合、比較表作成に支障が見込まれるため、ご方針をご教示ください。	Excel等のファイル形式での提供を想定しています。
10	「令和4年度有機フッ素化合物土壌分析法検討調査業務」データについて 提供時期、匿名化範囲、報告書への再掲可否について、ご方針をご教示ください。	提供時期：業務契約期間中、匿名化範囲：とくになし、報告書への再掲可否：とくに制限なし、を想定しています。
11	土壌中のその他PFASの測定方法に係る検討（分析法開発） ・模擬汚染土壌の作製とエージング方法の検討について 想定する土壌の種類（粒径区分、砂質・粘土質・有機質等）があればご教示ください。	模擬汚染土壌の作製とエージング方法の検討については、仕様書3.（3）土壌中のPFASの挙動等をふまえた調査方法等に係る情報収集、3.（4）有識者等へのヒアリング等の結果をふまえ、次期の試験計画として提案いただく形を想定しています。
12	土壌中のその他PFASの測定方法に係る検討（分析法開発） ・模擬汚染土壌の作製とエージング方法の検討について エージング期間の指定または目安があればご教示ください。	模擬汚染土壌の作製とエージング方法の検討については、仕様書3.（3）土壌中のPFASの挙動等をふまえた調査方法等に係る情報収集、3.（4）有識者等へのヒアリング等の結果をふまえ、次期の試験計画として提案いただく形を想定しています。
13	土壌中のその他PFASの測定方法に係る検討（分析法開発） ・模擬汚染土壌の作製とエージング方法の検討について エージング方法の検討について、「前駆体からの変化も考慮」とあります。44項目に含まれない前駆体扱いとして、想定するご方針をご教示ください。	模擬汚染土壌の作製とエージング方法の検討については、仕様書3.（3）土壌中のPFASの挙動等をふまえた調査方法等に係る情報収集、3.（4）有識者等へのヒアリング等の結果をふまえ、次期の試験計画として提案いただく形を想定しています。
14	土壌中のその他PFASの測定方法に係る検討（分析法開発） ・模擬汚染土壌の作製とエージング方法の検討について 「土壌中PFAS一斉分析法（44項目）」とは、暫定測定方法に基づく溶出量試験に加えて、参考扱いとされる含有量試験を表1のPFAS（44項目）に拡張した分析法、と理解してよろしいでしょうか。	仕様書に記載の通り、暫定測定方法（溶出試験）についての検討を想定しています。